

○第46回肥料・飼料等／第22回微生物・ウイルス合同専門調査会（薬剤耐性菌に関するWG）

日時：平成23年6月6日（月）15：00～17：28

議事概要：

（1）塩酸ピルリマイシンを有効成分とする乳房注入剤（ピルスー）の承認に係る薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価について

・審議の結果、食品健康影響評価については、

1）評価対象動物用医薬品が牛に使用された結果としてハザードが選択され、牛由来食品を介してヒトがハザードに暴露され、ヒト用抗菌性物質による治療効果が減弱又は喪失する可能性は否定できないが、リスクの程度は低度であると考えられた。

2）なお、薬剤耐性菌については、現時点では詳細な科学的知見や情報が必ずしも十分とはいえ、また、リスク評価の手法についても国際的にも十分確立されていないと考えられるため、国際機関における検討状況等を含め新たな科学的知見・情報の収集が必要である。とすることが了承され、評価書（案）を一部修正の上、食品安全委員会に報告することとなった。

\* リンコマイシン系抗生物質で、動物用医薬品として牛の泌乳期の乳房炎の治療に使用されます。